



かつ もく

刮目

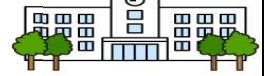
学校教育目標

校訓

刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、たくましく自己実現していく生徒の育成～

自主・剛健・高雅



東金市立東金中学校 学校だより第51号

令和6年3月6日発行 文責：副校長 久我 和廣

実るほど ^{こうべ} 頭を垂れる稲穂かな

『過ちは則(すなわ)ち改むるに憚(はばか)ることなかれ』これは、論語の中の孔子のことばです。「人間には誰にも過ちはあります。もし過ったと知ったなら、ためらうことなく速やかに改めなければいけません。」という意味です。また、「**実るほど頭(こうべ)を垂れる稲穂かな**」という格言もあります。これは、「人格の高い人ほど、相手に対して態度が謙虚である」ということを教えたものです。



『論語』の中で孔子は、「道を悟った立派な行動ができる人、品位のある人は、いつも自戒して決して威張らない」と言っています。「謙虚」な人は、自分が人間として立派に成長しようという気持ちがあり、まだまだ修行が足りないという素直な自己反省の姿勢で日々過ごすことができます。この言葉は、学ぼうという気持ちの基本といえます。



「謙虚」に近い語には「謙遜」「謙讓」「遠慮」「控え目」などがあり、相反する言葉には「傲慢」「高慢」「自慢」とか「うぬぼれ」などが浮かびます。

誰かから「それは思い上がりだよ」と言われ、はっと気づき自分を取り戻した経験はありませんか？過ちを指摘された時に、カッしたり、ふてくされたりするのではなく、自分を振り返り、考え、指摘してくれた人に感謝し、意見の交換をしっかりとすることも自己成長に必要なことといえます。

人の忠告をよく聞き、自分を反省し、思慮深く節度のある生活に心がけたいものです。また、自分と違う考えや立場を尊重することも、とても大切なことです。

～参考文献「一日一話学校講話実例365(教育開発研究所)～」

中学校を卒業し、新しい世界に進む3年生には、常に「謙虚」な気持ちをもって人と接し、自分の夢に向かって、大きく成長して行ってほしいと願っています。

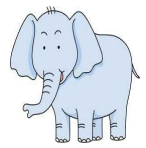
違うから、すばらしい！！
違うから、仲良くしよう！！

ぞうさん ぞうさん おはながながいのね
ぞうよ かあさんも ながいのよ

ぞうさん ぞうさん だあれがすきな
あのね かあさんが すきなのよ

上の作品は、詩人の「まど みちお」さんの書いた、誰でも知っている「ぞうさん」という童謡です。「まど みちお」さんは、この詩の意味をこう解説しています。

ぞうの子は、鼻が長いねと悪口を言われた時に、しょげたり腹を立てたりする代わりに、一番好きな母さんも長いよと誇りをもって答えた。それは、ぞうがぞうとして生かされていることが、すばらしいと思っているからです。だからこの歌は、「ぞうに生まれてうれしい」と思っているぞうの歌なのです。目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから、仲良くしようということなのです。



私たちは幼い頃から、この童謡を何気なく口にしてきました。しかし、この童謡が「もっともっと強く自分に自信をもとう」ということを伝えている歌であること、また、「違うことに自信をもって生きる姿勢」を歌った童謡であることなど、一度も考えたことなどなかったのではないのでしょうか。「まど みちお」さんは、2014年2月に104歳で亡くなりました。100歳を過ぎるまで、優しい言葉で詩や文章を書き続け、多くの人に勇気を与えました。「まど みちお」さんの「違うから、すばらしい！！違うから、仲良くしよう！！」という精神は、生きとし生けるもの全ての価値に通じるものなのです。子どもたちは、これからの生活の中で、友だちとうまくわかり合えない時も多いかと思います。そんな時、「私も、あの子も、違う人間として生きているんだ。だから、すばらしい。だから、仲良くしよう！」と考えられたら、誰かをいじめたり、からかったり、憎んだり恨んだりする場面も減ってくるのではないのでしょうか？子どもたち一人一人が、これからの人生を、「生きているというすばらしさ」や「生かされている価値」を感じながら、自分に自信をもって歩いていって欲しいと思います。



～参考：「偉人・著名人の言葉で語る校長講話」教育開発研究所～